

平成23年 教育委員会第15回定例会 秘密会 会議録

日時 平成23年9月13日（火） 午後4時11分～午後4時32分
場所 麴町区民館

議事日程

第2 報告

【子ども総務課】

- (1) 平成24年度 子ども・教育部予算編成方針【政策形成過程終了につき、
公開】

出席委員 (5名)

教育委員長	市川 正
教育委員長職務代理者	中川 典子
教育委員	古川 紀子
教育委員	近藤 明義
教育長	山崎 芳明

出席職員 (8名)

子ども・教育部長	高山 三郎
参事(子ども健康担当)	清古 愛弓
子ども総務課長事務取扱 子ども・教育部参事	高橋 誠一郎
子ども施設課長	佐藤 尚久
子ども支援課長	依田 昭夫
児童・家庭支援センター所長	山下 律子
学務課長	平井 秀明
指導課長	坂 光司

欠席職員 (1名)

次世代育成担当部長	保科 彰吾
-----------	-------

書記 (2名)

総務係長	小宮 三雄
総務係員	成畑 晴代

◎日程第2 報告

子ども総務課

- (1) 平成24年度 子ども・教育部予算編成方針

市川委員長

それでは、ただいまから秘密会を開会いたします。

子ども総務課長からの報告ですね。お願いします。

子ども総務課長

それでは、平成24年度の部の予算編成方針につきまして、このご議論は庁内の意思形成過程に係るものですから、秘密会ということにさせていただきますと存じます。また、この予算編成方針は、当子ども・教育部の組織目標でもあるということもあわせてお伝え申し上げます。

まず、予算編成方針でございますが、これは、本年度、平成23年度と同様の方針で臨むものでございます。

大変恐れ入ります、23年度と24年度の編成方針、見比べながらのご説明とさせていただきます。よろしゅうございますか。

まず、24年度も23年度も5つの目標を立てました。24年度の1点目は、「個性を伸ばし、生きる力を育む教育の推進」。これは23年度に置きかえますと、これ、23年度の4番目の目標でございます。その中で、変わりましたところは、基礎・基本の定着というのは従前どおりでございますが、そこに加えまして、「発展的な学習を充実させ、子どもたちの力を最大限に伸ばします。あわせて、在来中学校の特色ある教育活動を推進します」、これは今年度もやっておりますけども、ここの部分が23年度と変えたところでございます。

2点目の発達障害につきましては、今年と同様でございます。

3点目に、今でもやっておるのですが、心の教育の推進というのを明確に記載したものでございます。「学校、園、児童館などにおける自然体験、社会体験等」というのは、23年度と同様でございますが、「心の教育」を明確に記載したものでございます。

2番目の「子どもの健やかな成長と子育てに喜びとゆとりを持てるよう支援」という目標でございます。これは、23年度は目標のレベルが具体的過ぎて適当じゃなかったかもしれませんが、保育園、学童クラブの待機児童ゼロというのが目標としてありましたが、事務局内の議論で、ここは表裏的にレベルが違うんじゃないかと。そこを、言い方を変えたものでございます。

この中で変わりましたのは、1行目のポチ、「生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期の教育の充実と、小学校教育への円滑な接続を推進します」。いわゆる小1プロブレムについて、現在も取り組んでおるのですが、そういったことを改めて決意をしたところを書いたところでございます。

また、2行目の「保育供給総量の拡大を図り」、後段の「あわせて、ハード整備に依存しない家庭的保育事業等、多様な手法の活用」というのは、いわゆる保育ママさん、こういった事業の取り組みをさらに進めていくという、ことを書き加えたものでございます。

それから、6つ目の「麹町地区の一時（いっとき）預かり保育の供給量の拡大を図り、利用者ニーズに応えます」。これも23年度の目標にないのです

が、差し迫ったニーズにこたえるために、ここの部分を具体的に追記したものでございます。

3つ目の「子どもが安全に安心して過ごせる地域づくりの推進」。これは、23年度でいきますと、2番目の目標に掲げました。これも例年と変わらないのですが、ここは、今年の3月11日の東日本大震災の教訓を踏まえた分野につきまして、災害対応、危機管理についても、当然、対策をしていくというところを追記したものでございます。

それから、おめくりいただきまして、4番目の目標でございます。4番目の目標ですが、これは「子育てに関する相談体制の充実と親育ちの支援」。これは23年度で言いますと3番目の目標でございます。大きく変わるところはございませんが、この「相談体制の充実」という中で、3番目のポツにあります「児童、保護者、教職員への心理的支援を充実させるため、巡回相談員やスクールカウンセラーを適切に活用し」というところを、この「巡回相談員」、現在も配置しておりますが、この巡回相談員の増員というんですか、そういったものを強く意識して、そこを明確に追記したものでございます。

5番目でございますが、これは、今年、23年度同様に、「子どもを育む環境の整備」ということで記載しております。これは年々歳々の状況の変化がございます。

1番目のポツからいきますと、今年度取り組んでおります「学校施設整備計画の基礎調査」に基づきまして、九段小学校・幼稚園の整備、そして神田一橋中学校の設備改修というのを具体的な計画にのせるということ。

そして、2番目のポツ、「周辺街づくりの状況を踏まえ、お茶の水小学校・幼稚園の整備を検討します」というものを加えました。

3番目のポツですが、先ほど高山部長からも報告ございましたが、ここでも九段中等教育学校の連絡橋の整備、そして現在取り組んでおります麴町中学校の校舎改修の一環であります校庭整備等、今、工事中であります神田保育園の整備を書いたものでございます。

4番目のポツですが、こちら、今般、議会でも議論しているところではありますが、「(仮称)麴町地域認可保育所の改築整備を進めます」というものも加えたところでございます。

それから、最後のポツでございますが、こちらやはり東日本大震災を踏まえまして、非構造部材等の耐震点検の強化、そして、今年の夏も大変でしたけども、今までは温暖化対策というだけでしたから、それに加えて、節電というところも追記したところでございます。

報告は以上でございます。

市川委員長

ご苦労さま。

何かご意見等ございますか。

中川委員

予算編成の、主要施策ということで出てきているんですが、これは今後の予算に反映されるということになるわけですね。

子ども総務課長 はい。

中川委員 そうすると、予算というのは、去年の資料だと、「区の仕事のあらましー予算（案）の概要」をもとに審議のうえ予算案が決まりますが、予算概要がこの先に出てくるというのはいつぐらいなのでしょう。

子ども総務課長 そうですね。実は予算の事務説明会がありましたのが9月2日でありまして、経常事務の締め切りが、たしか10月7日ぐらいですかね。ですから、まだまだちょっと、予算の数字の積み上げがこれからというところが多うございまして、経常経費は基本的には変わらないのですが、特に、ここであらうたっておりますのは、新規ですとか拡充していくべきものをこの予算編成方針案に載せたというふうにご理解いただければと思います。

子ども・教育部長 一応、予算の区長査定が終わるのが、年末ですね、12月20日ごろ。概要だけ、概算が決まります。その後若干の調整をしてやるのが例年の常でございます。1月の末には議会の全員協議会を開いて、発表していくと。その前段で、皆様にも教育分の予算等についてはご説明できる機会はあると思います。しかしながら、今回、この第3回定例会も、当初よりも1週間か2週間ぐらい遅れています。そうしますと、4回定例会も若干遅れる可能性があります。そうすると、年末に予算の概要がまだ区として決まらない可能性があつて、1月に入っちゃうんじゃないかなという予測もしておりますので、まあ、教育委員会予算の概要が固まってくるのは1月の中旬というふうにお考えいただくのが一番、今のところのスケジュールだと思います。

中川委員 当然、今お持ちだと思えますけど、予算の概要という厚い本、あれがそのころにでき上がるというふうなことです。年末からつくっていきます。

中川委員 ここでは見えてこないんですけど、例えば九段小学校の通級を今、試験的にやっていますよね。その予算がこうだからこうなるとか、スクールライフサポーターの予算など、今年試験的だったあたりが今後どうなるという予測は立てていらっしゃるかというのを知りたいです。

指導課長 只今、ご指摘いただきました2点については、1番の「個性を伸ばし、生きる力を育む教育の推進」の項目に含まれるものでございます。黒ポチの2点目にある「発達障害など特別な支援が必要な子ども等に対する」具体策として、九段小学校の校内通級の手当てですとか、あるいは個に応じた指導の充実という部分で、スクールライフサポーターなどが関連してくるわけですが、まだ半年終わっただけですが、成果として比較的プラスの評価をいただいておりますので、これをまとめて、財政当局と調整していきたいと思っております。拡充の方向で臨めればと考えておるところです。

中川委員 あと、今日も見ていて、「私立認可保育所の利用者ニーズに応じた独自サービス展開」というのが2番にありますけども、保育料が、区内在住で子どもが保育園に入れる資格がある子どもの保育料というのは2割ぐらい安いんですよね。

子ども支援課長 いわゆる2割安いというのが認証保育所ですね。認可保育園は認証保育所に比べると若干高いということなんですけども。その保護者、保護者の実情

に応じて、保育料の減額とか減免、そういった制度がございます。

中川委員

今日、感じたんですけども、あそこのアスクなんかは経営母体が違いますから、幼児教育みたいなのを随分やっていますよね。区の保育園でのそういうのはないわけで、どっちが良いかというのは、それはまた別の問題として。「独自サービス展開」を支援しますというのが書いてある、この「独自サービス」というのはどういうサービスか、ちょっと気になったんですけども。

子ども支援課長

独自サービスの中身なんですけれども、今、認証保育所のほうでも、必要に応じて、現在7月から9月にかけて、休日保育をできる体制というのを区の認可保育所のほうでも体制を組んでいるんですが、ちょっとそれは緊急対応ということなんです、来年度から私立の認可保育所、先ほどのアスクです、そこで、必要に応じて休日、祝日保育を行っていくというのが1点です。あと、今現在、ふじみこども園のほうで、病後児保育で、認証保育所1カ所で、同じように病後児保育を行っています。そういった取り組みを行っていくところというところが1点でございます。

その他、必要に応じて、いろいろな子育ての相談機能等も付加していこうというところもございまして、そういったいろいろな提案について、区としては助成をしていこう、支援していこうという考え方で、全く区内で行われていない事業というわけではないんですが、トータルで1施設が行っていけるというところをバックアップしていこうというのが、この文言になっております。

中川委員

ただ、「独自サービス展開を支援します」という書き方をしちゃうと、ちょっと誤解される部分があるんじゃないでしょうか、ほかの公立の保育園や何かの状況と比べまして。

子ども支援課長

そうですね。先ほどのご案内があった情操教育とかリトミックといった分野が独自サービスという範疇ということになりますと、やっぱり今申し上げたサービスは、ちょっとこの「独自サービス」という言い方だと、ちょっと紛らわしい部分もあるのかなというところはございます。ご指摘のとおりだと思います。

市川委員長

よろしいですか。

中川委員が、冒頭の部分で今発言をされたんですけども、教育の中身の問題、周りの問題はいろいろここにも出てくるんですが、いや、それは指導課長の話によると、それは含まれています、1番に含まれていますとか2番に含まれていますと——2番に含まれているというのがあったな。やっぱり、悪口を言うわけではないんですが、これは法的には教育委員会なんです、もう少し教育の中身の問題ですね。食材がどうしたとかそういうのはもちろん大事なんですけれども。それ、幾つかもう、新しいことを提案されていますよね。特色ある学校をどうやってつくっていくのかとか、そのほかにも、子どもたちに、何とか、学問でも、勉強でも、スポーツでも、芸術でも何でも良いから、グランプリ賞を考えたらどうだとか、そういうような、

これも、言ってみれば、教育の周りをめぐる問題なんです。じゃなくて、もっと真剣に、中身ですね。それを教員の先生たちにも呼びかけて、真剣に、学校って一体何なんだと、あるいはどういう学力を千代田区はつけようとしているのかというようなことをやる必要があるんじゃないかと。

そのためには、やっぱり1項目、もう今年は間に合わないと思うんですけども、1項目、教育の中身の問題、これを立てて、教員もやっぱり不安になると思うんですよ。教科書をなるべく、従前に使っていたような教科書を使うというのは、そういうところから出てくるのかもしれませんがね。新しいのはちょっと見合わせるんだとか。それから、中身をちょっと、私はさっき冗談に、それを考えると眠れなくなっちゃうよと言ったんですけど。本当にきちんと説明できるのかなと、中身でね。あの例で。そういうことに疑問を持つので。ぜひ、そういう方向からも検討してください。今年は無理だと思います。

私は、悪口みたいに聞こえたかもしれませんが、それだけ千代田区の子育てというのは今まで遅れていたということなんですよね、何をしても。ですから、そのこと自体に文句をつけたりするつもりはないんですが、やっぱりきちんと教育の中身の問題については、華々しいことは何もないと思うんです、恐らく。教員の研修会をつくったり、いろんな研究会を設けたりと、それを今まで以上にやる必要が、やることによって、教員もその気になるだろうし。

いや、実は、私の感想でまた申しわけないんですけども、どうも納得がいかなかったんですよ、今回の教科書採択で。これは私だけの感想じゃないかもしれないけど。非常に、教科書の科目によっては、安易にまとめ上げているというような気がしてならなかったんですけれども。まあ、しかし、あの時点まで話が進んだ以上は、やむを得ないのかなというふうに思いました。

そういう意味では、来年度、やっぱり一つ大きな柱といっても、中身は細かいからね、大きな柱にはならないのかもしれないなど。やっぱりそういうことをきちっと挙げて、予算の額にしたって、そんなべらぼうな数字が出るわけじゃないんだから。建設事業でもなければ何でもない。ただ、きちんと研究することは研究する。勉強し合うことは勉強し合う。そういうことが教育の中身の問題については非常に必要だと、今回切実に感じましたので、来年度以降、検討していただきたい。

長広舌を振るいましたが、よろしゅうございますか。ほかにご意見等があれば。

(「なし」の声あり)

市川委員長

特になければ、本日の委員会をこれで閉じることにいたします。